

付加価値の高い多品種ミニトマトの生産及び加工品の開発・製造・販売

(総合化事業計画 平成30年3月30日認定)

株式会社エコリカル

【事業者の概要】

- ・所在地 : 兵庫県南あわじ市
- ・代表者 : 菊川 健一
- ・取組内容: 旧小学校跡地でハウス栽培したミニトマトの販売と加工品の開発・販売を行っている。

【取組の効果】

- 事業全体の経営 (H30→R4)
売上高 3%上昇
- ミニトマトの販売をきっかけに、旧小学校跡地でミニトマトの収穫体験や食を味わうことができる宿泊施設(アグリミュージアムNADA)の利用も増加。

【取り組むに至った経緯】

- これまで農業ビジネスとして都市緑化商品の開発・製造に取り組んできたが、建築・建設マーケットが縮小傾向にあった。
- 淡路島内で採れた農産物は島外でも高く評価されていることから、農業ビジネスの主力をミニトマト生産に移行することとした。

【今後の展望】

- ハウスでのミニトマトの栽培は順調に推移しているため、今後規模拡大し、更なる収量増大を目指す。
- ドライトマトやトマトピューレなどの加工品は、試作品を完成させており、自社加工、外注加工のメリット・デメリットを考慮しながら、進めていきたい。
- 地域の特産品であるびわを使った加工品や、有機ミニトマトの栽培なども考えていきたい。

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 農業ビジネスの主力をこれまでの都市緑化事業から需要の高いミニトマト生産に移行するための土地、施設の整備
→南あわじ市の旧小学校跡地を活用し、環境制御型ハウスを整備。露地と競合する夏場を除き通年で収穫。
- 令和元年度に、コナジラミの多発により黄化葉巻病が発生し収穫皆無
→令和2年度からは普及センターの指導により病気の発生を抑え込むことに成功している。
- ミニトマトの販路拡大
→「淡路島産の地中海トマト」「淡路島産の校庭トマト」としてラベル・パッケージングを行うことにより、手に取ってもらえる機会が増え、販売量増加。淡路島産の校庭トマトはふるさと納税返礼品にも採用。

【活用した支援施策】

- H30食料産業・6次産業化交付金(整備事業)
環境制御型ハウス、ミニトマト選別機

